



本書は、動画「安全・安心①対話式インターフェース」の内容を示した文書です。

■ チノーの調節計は、設定値変更の際、Enter キーを押す必要があります

カーソルで値を変更すると、「？」や「点滅」といった表現を用いて、オペレータに設定値の確認を行います。このとき、Enter キーを押さない限り、設定値は更新されません。およそ3分間待てば、変更前の値のまま運転画面に戻ります。MODE キー 2 回で (DB600 は長押し 2 回) で運転画面に戻ることができます。



DB1000 の確認画面：「？」の表示



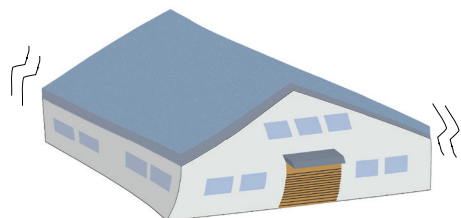
DB600 の確認画面：点滅の表示

■ 「？」や「点滅」で、その都度、設定値の確認を促し、事故を未然に防いでいます

現場では、ひとつの調節計を、たくさんの方が操作するケースがあります。そのとき、年齢や経験年数などに差がある為、調節計に対する習熟度が、人によって大きく異なります。



現場オペレータのイメージ



※災害時には、避難が優先ですが、大きな被害ではない場合、装置保全のため、緊急停止ではなく速やかなシャットダウンが求められます。

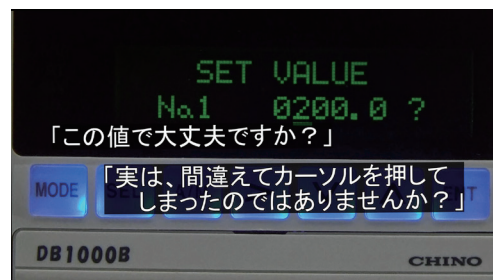


地震などの緊急時には、普段、調節計を取り扱わない方が操作を行うケースもあると思います。

どのようなケースであっても作業が安全に遂行される必要があります。

調節計の操作をする方に対し、「この値で大丈夫ですか？」
「実は間違えてカーソルを押してしまったのではありませんか？」
調節計はその都度、問いかけます。

どのようなシチュエーションであっても、事故を未然に防ぐために、このような対話式インターフェースを採用しているのです。



オペレータに設定値の確認を要求する調節計